

大阪 PCB 廃棄物処理事業の操業状況について

1. 操業状況

(1) 搬入実績(平成 18 年 10 月～令和元年 11 月末)

平成 18 年 10 月から令和元年 11 月末までの PCB 廃棄物搬入実績は、(表-1)のとおりトランス類が 2,685 台(H30.11 末:2,624 台)、コンデンサ類が 79,968 台(同:76,491 台)、廃 PCB 等が 1,873 本(同:1,579 本)となっています。

令和元年 11 月末現在で近畿 2 府 4 県で登録されている PCB 廃棄物のうち、トランス類では約 99 % (同:97%)、コンデンサ類では約 97% (同:92%)、廃 PCB 等では約 92% (同:77%) が搬入されました。

表-1 年度別の搬入実績

種類	年度	滋賀県	京都府	兵庫県	奈良県	和歌山県	大阪府	大阪市*2	合計
トランス類 (台)	平成18	-	-	-	-	-	68	68	68
	19	-	-	-	-	-	332	332	332
	20	-	6	-	-	-	306	257	312
	21	2	8	74	-	6	290	116	380
	22	3	28	99	6	14	252	92	402
	23	1	22	79	48	8	101	77	259
	24	3	19	18	4	25	118	52	187
	25	3	20	28	31	1	186	81	269
	26	4	11	21	13	-	76	43	125
	27	-	5	27	4	14	38	27	88
	28	-	15	24	-	23	21	17	83
	29	-	-	28	2	1	45	38	76
	30	-	3	42	-	1	35	28	81
	令和元年11月末	-	-	15	-	-	8	7	23
合計		16	137	455	108	93	1,876	1,235	2,685
登録数		16	138	471	108	95	1,889	1,246	2,717
搬入実績		100.0%	99.3%	96.6%	100.0%	97.9%	99.3%	99.1%	98.8%
コンデンサ類 (台)	平成18	-	-	-	-	-	2,096	2,096	2,096
	19	-	-	-	-	-	4,575	4,575	4,575
	20	52	87	245	9	-	5,015	2,649	5,408
	21	493	1,014	2,270	254	546	1,831	458	6,408
	22	598	525	2,462	156	563	2,228	566	6,532
	23	655	770	2,377	179	428	1,784	183	6,193
	24	588	1,271	2,546	269	513	2,527	293	7,714
	25	1,257	845	3,800	338	306	2,373	506	8,919
	26	457	736	2,834	355	145	1,709	322	6,236
	27	252	804	3,046	271	325	2,210	682	6,908
	28	271	1,878	2,828	159	210	1,445	356	6,791
	29	188	2,166	1,859	58	57	1,760	713	6,088
	30	116	531	978	56	73	1,996	443	3,750
	令和元年11月末	59	306	728	74	107	1,076	322	2,350
合計		4,986	10,933	25,973	2,178	3,273	32,625	14,164	79,968
登録数		5,066	11,102	26,327	2,266	3,384	34,597	15,484	82,742
搬入実績		98.4%	98.5%	98.7%	96.1%	96.7%	94.3%	91.5%	96.6%
廃 PCB 等 (本)	平成18	-	-	-	-	-	20	20	20
	19	-	-	-	-	-	69	69	69
	20	-	5	-	-	-	88	82	93
	21	1	5	44	1	-	30	28	81
	22	5	-	21	-	-	57	3	83
	23	2	10	51	-	6	111	46	180
	24	62	10	30	-	3	193	144	298
	25	41	10	11	2	4	161	81	229
	26	4	13	56	-	-	13	4	86
	27	8	4	23	-	2	41	17	78
	28	12	10	29	1	1	38	18	91
	29	5	35	60	-	5	45	22	150
	30	4	22	68	3	5	94	71	196
	令和元年11月末	7	9	133	1	5	64	46	219
*1 合計		151	133	526	8	31	1,024	651	1,873
登録数		153	162	553	10	36	1,124	712	2,038
搬入実績		98.7%	82.1%	95.1%	80.0%	86.1%	91.1%	91.4%	91.9%

エリア間移動により豊田 PCB 処理事業所で処理した PP コンデンサ含む。

(登録台数は、令和元年 11 月末現在)

*1: ドラム缶等本数

*2: 大阪府に含まれる内数

(2) 中間処理実績等(平成 18 年 10 月～令和元年 11 月末)

平成 18 年 10 月から令和元年 11 月末までの PCB 廃棄物処理実績は、(表-2) のとおりトランス類が 2,676 台(H30.11 末:2,604 台)、コンデンサ類が 74,567 台(同:71,017 台)、廃 PCB 等が 1,750 本(同:1,527 本)となっており、近畿 2 府 4 県で登録されている PCB 廃棄物のうち、トランス類 98.5%(同:95.8%)、コンデンサ類 95.9%(同:91.3%)、廃 PCB 等では 85.9%(同:74.9%)が処理されました。

トランス類については、平成 21 年度をピークに台数は減少傾向、重量は平成 22～28 年度は 300t～400t で推移しました。小型トランスの処理が進み大手多量保管者が所有する大型物の処理となったことで、平均重量では平成 21 年度は 1.1 t でしたが、平成 28 年度は電鉄会社の 20t クラスの超大型物の処理が進み平均重量でも 4.2 t となりました。平成 29 年度は保管事業者も絞られ 74 台に減少、残存物に 20t を超える超大型物が少なくなったことにより平均重量は 1.9t となり、平成 30 年度は再び度大型物の処理割合が多くなり平均重量は 3.7t となりました。令和元年度の平均重量は、これまでのところ 2.7 t となっています。

コンデンサ類については、平成 24・25 年度をピークに台数、重量とも減少傾向にあります。平均重量では平成 24 年度は 54.4kg、平成 28 年度は 33.5kg、掘り起こし活動により登録されるコンデンサ類は 10kg 以下の小型電気機器の割合が多く、平成 30 年度の平均重量は 30.4 kg となりました。この傾向は続いており、令和元年度の平均重量は 33.6 kg となっています。

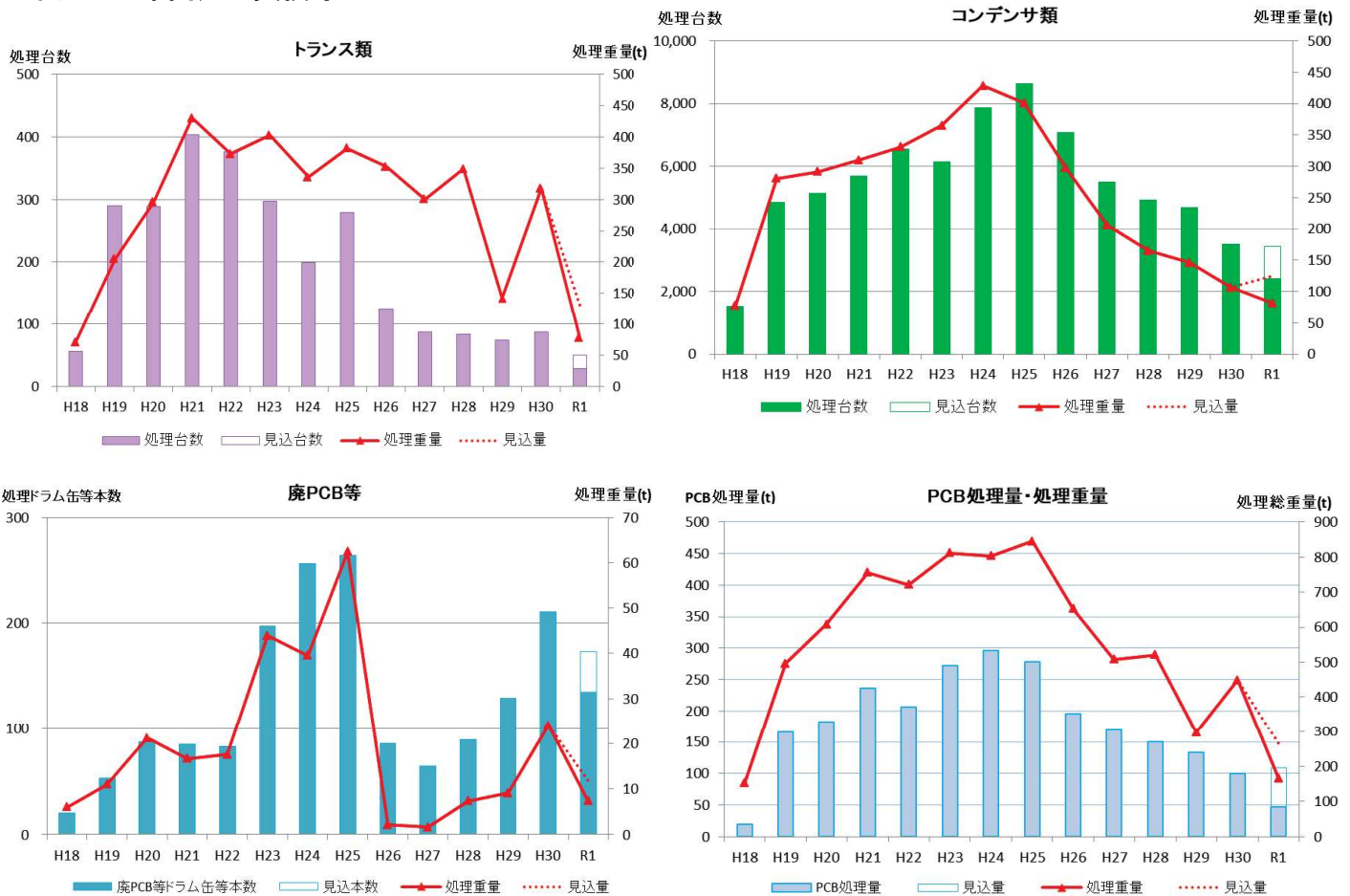
全体として、残りが数%となる中で契約が難航するほか、処理手間物・困難物等(コンクリート固化品、組成不明油、低引火点成分混入 PCB 油、PP コンデンサ(少量保管者分のみ。))により、搬入までの期間や処理に時間を要している状況です。

このような状況の中ですが、処理は着実に進んでおり、処理期限に向けて引き続き安全確実に処理を行い早期処理を推進してまいります。

表-2 年度別の中間処理完了実績等

種別	年度		H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1 11月末	計
	受託処理 (中間処理 D票)	トランス類	処理数(台)	56	290	289	404	376	297	199	279	125	87	84	74	87	29
処理重量(t)			70.4	205.0	295.9	429.9	372.6	402.6	335.7	381.7	352.4	300.3	348.9	142.1	317.9	77.4	4,032.8
コンデンサ類		処理数(台)	1,513	4,862	5,136	5,692	6,557	6,152	7,873	8,636	7,091	5,507	4,931	4,682	3,513	2,422	74,567
		処理重量(t)	77.0	280.4	291.5	309.8	330.9	364.9	428.5	400.8	297.5	205.7	165.0	146.2	106.7	81.4	3,486.3
廃PCB等		処理台数等(本)	20	53	87	85	83	197	256	264	86	64	89	129	211	126	1,750
		処理重量(t)	6.0	11.0	21.2	16.6	17.5	43.9	39.5	62.4	2.1	1.6	7.3	9.1	24.0	7.3	269.5
処理重量計(t)		153.4	496.4	608.6	756.3	721.0	811.4	803.7	844.9	652.0	507.6	521.2	297.4	448.6	166.1	7,788.6	
PCB処理量(t)		19.7	165.7	181.9	236.5	206.0	272.8	295.8	278.0	195.9	168.9	149.8	133.7	100.3	46.7	2,451.7	

図-1 中間処理実績等



(3) エリア間移動による効率的な処理の推進

令和元年11月末時点でのエリア間移動処理の実績及び今後の計画は、(表-3)のとおりです。

表-3 エリア間移動処理の実績及び今後の計画

(処理台数)

区分	分類	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和1年度	令和2年度	合計	
トランス類	新幹線車載トランス (豊田エリアから)	計画	10	8	6	6	0	0	30
		実績	10	8	6	6	-	-	30
コンデンサ類	特殊コンデンサ*1 (北海道エリアから)	計画	0	0	97	140	140	123	500
		実績	0	0	70	0	-	-	70
	特殊コンデンサ*1 (豊田エリアから)	計画	9	70	68	120	120	113	500
		実績	9	70	37	4	-	-	120
	PPコンデンサ*2 (豊田事業所へ)	計画	296	2,368	2,010	1,326	0	0	6,000
		実績	296	2,368	2,033	274	16	-	4,987

*1 特殊コンデンサ: 内部素子が炭化しているコンデンサ等

*2 PPコンデンサ: ポリプロピレン製の素子等を使用したコンデンサ等

(4) 払出実績(平成 18 年 10 月 ~ 令和元年 11 月末)

1) 有価物・廃棄物

有価物・廃棄物の払出実績は(表—4)に示すとおりであり、これらは(表—5)に示す方法で再資源化しています。

表—4 年度別の払出実績

単位(t)

区分	年度													R1 11月末	
	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30		
有価物払出実績	100	593	663	849	724	810	761	666	485	433	429	397	441	172	
内訳	劣化溶媒 *1	53	372	375	479	386	433	425	318	118	115	131	134	175	67
	鉄	39	179	230	293	261	294	262	293	256	236	214	223	90	
	銅	4	17	30	40	37	42	36	45	38	32	34	22	27	9
	その他*2	4	25	28	37	40	41	38	41	36	30	28	27	16	6
廃棄物払出実績	100	638	903	1,046	908	1,252	1,258	1,160	867	828	713	636	493	285	
内訳	塩酸	79	419	550	671	597	713	748	724	522	502	442	408	301	179
	ビフェニル	15	133	147	190	157	208	197	221	164	143	112	106	81	45
	トリクロロベンゼン	0	30	50	66	60	61	56	59	44	55	43	33	25	0
	碓子・ガラスくず	3	16	18	20	17	21	22	19	16	12	11	9	5	5
	活性炭汚泥	0	0	30	20	10	20	22	27	32	26	31	19	27	16
	その他*3	3	40	108	79	67	229	213	110	89	90	74	61	54	40

*1 劣化溶媒：脱塩素化分解の反応溶媒として使用した鉱油
 *2 その他：アルミ、ステンレス等
 *3 その他：木酢液、廃アルカリ水、分析廃水、炭化物、廃プラスチック等

2) 廃棄物等の再資源化方法

表—5 払出している廃棄物等の再資源化方法

廃棄物等	再資源化方法
劣化溶媒	工業用燃料
塩酸	飛灰、スラッジ、汚染土壌の金属抽出剤として利用
	汚泥処理(中和)剤として利用
ビフェニル	他の廃油等と混合の後、セメントメーカーで燃料として利用
	他の廃油等と混合の後、助燃油として利用
トリクロロベンゼン	高炉用ペレット製造又はセメント原料製造工程の原燃料
碓子・ガラスくず	再生砕石等として利用
活性炭汚泥	路盤材として利用